

歯科・口腔外科の診療をスタート

城西病院の歯科・口腔外科の診療が11月1日、スタートしました。バリアフリーの施設で最先端の3次元CT装置など最新の医療機器を備え、総合病院の歯科・口腔外科として内科や脳外科、外科などほかの診療科と密に連携を図って診療を行っていきます。

歯科は、今春まで医心会城西歯科として診療を行ってきました。今回、城西病院の他科と密に連携を図り、より患者さまに最適な診療を行うことを目的に、城西病院内の歯科・口腔外科として、新たなスタートを切ることになりました。

新しい歯科・口腔外科は、診療用ユニットが3台で、広い空間を実現し、車いすで自由に移動できるバリアフリーの構造になっています。機器も最新のものを導入。3次元CT装置は、最新のX線デジタル撮影装置で、放射線量は従来機器の7分の1に抑えられ、正確でスピーディーな撮影で3次元映像を得ることができます。撮影した画像は、患者さまの目前に置かれたモニターに映し出すことができます。ポータブルユニットの治療機器も導入し、城西グループ内の城西病院や高齢者施設で移動することができない方にもベッドサイドで治療することができます。福本久郎歯科医師は「高齢化社会においては、基礎疾患を有する患者さまも多く、歯科治療には他科との連携が重要と考えています。そのため、他科との連絡を取りやすい総合病院の歯科の果たす



役割は大きいと思われる」と話していました。

式典ではテープカットに続き、多田正毅理事長や近藤稔医心会理事長らがあいさつ。福本久郎、中村浩彦両歯科医師、中野理恵子、羽場裕子両歯科衛生士、大島純子受付担当のスタッフが「地域に根差した優しい診療を行っていきたい」など、抱負を語りました。

平成28年11月1日



歯科・口腔外科のメンバー